

新国立「ねじれ都議会」

知事と整備費めぐり論戦

代表質問に答弁する舛添要一知事
16日午後、東京都議会で



2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場(東京都新宿区)をめぐる、文部科学省が都に整備費500億円の負担を求めている問題で、16日の定例都議会で代表質問に立った4会派から質問が相次いだ。都知事選で舛添要一知事を支えた自民党が知事に苦言を呈し、対立候補を応援した共産党が知事を評価するなど、「ねじれ」の構図となった。(北爪三記)

「条件を付けて協力を表明した。この感覚には違和感を覚える」。自民の林田武都議はこう述べ、舛添知事が九日に「政府がしっかりと対応するのであれば、

与党の自・公 苦言 民・共は評価

都もできる限り協力していきたい」と述べたことに疑問を差し挟んだ。「設計工期や費用負担など現時点で不確定な事項に対する過剰な言及は、国との関係をこじらせる」と批判した。

同じ与党の公明の松葉多美子都議も「整備費の負担をめぐって混乱が続いている。一刻も早く決着をつけるべきだ」と注文調に。

一方、共産の植木紘二都議は「知事が文科省の姿勢を厳しく批判し、情報の全面公開などを積極的に求めたことは重要」と、舛添知事の対応を評価。民主の斉藤敦都議も「国から何の説明もない現状では、都が負担すべきではない」と知事を擁護した。

答弁に立った舛添知事は「国は国立競技場を期限までに完成させる役割と責任がある」と、あらためて国の立場を強調した。工期や総工費、都負担の根拠を明らかにするよう求めたこと



新国立競技場の建設計画について、市民団体「神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会」は十六日、建築費や工期の大幅な超過が懸念される現行案をあきらめて計画を白紙に戻すよう求める提言を公表した。

提言は、旧国立競技場(一九五八年建設)と神宮外苑競技場(二四年建設)という

提言を公表する森まゆみさん(右から4人目)ら東京都内で

市民団体は「計画白紙に」

前身の二競技場を指針として、神宮外苑の歴史や環境に配慮する計画を求めた。

都内で開いた記者会見で共同代表の作家森まゆみさんは「いま言うべきことを言っておきたかった」と話した。同会主催のシンポジウムもあり、建築エコノミストの森山高至さんは「お金も工期も足りず、現行案は建たない。本当のあるべき、真国立競技場」を真剣に考えるべきだ」と訴えた。

民主が新組織 国会で追及へ

トップに蓮舫氏

民主党は、新国立競技場の建設問題を調べる「公共事業再検討本部」を新設し、政府方針を追及するための作業に着手した。新組織トップの本部長には、政府予算の無駄を洗い出す「事業仕分け」に関わった蓮舫代表代行が就任。行財政改革の視点から、近く就

任する五輪担当相らの姿勢をただす意向だ。

新組織には、平野博文元官房長官や前原誠司元外相が本部長代行として参加し、事務局長には蓮舫氏と共に「仕分け人」を務めた玉木雄一郎衆院議員を起用。同党幹部は「新国立競技場は『五輪の顔』だ。国民の関心が高い」として、知名度の高い蓮舫氏を中心に国会などで攻勢を強めた